

## 裾野麗峰山の会報告書

文・写真 後藤

山行番 NO. 1622  
日時 2014.12.27(土)~29(月)  
山域 南ALPS・仙丈ヶ岳(3033m)地蔵尾根  
標高差 1日目  
上り 柏木集落駐車場約1139m~松峯小屋約2020m=約881m  
下り なし  
参加者 L 後藤隆徳(67)、千葉丈志(44)、掛橋智美(44)、庄野 修(59・ゲスト)  
タイム 下土狩4:00-甲府-伊那IC6:56-柏木集落駐車場着7:50-登山開始8:15  
林道終点12:00-松峯小屋入り口14:08-松峯小屋14:16(泊)  
荷物 後藤=23.5Kg、千葉=24.5Kg、掛橋=21.5Kg、庄野=25Kg

### 12月27(土) 無風快晴

仙丈ヶ岳・地蔵尾根の冬は、1979年12月30日~1月1日、飯豊連峰で遭難死したM 芳山・M氏(当時46歳)と二人で上った。今から36年前、私は32歳だった。娘が昨年3 回目の年女だったから、丁度娘が生まれた年だった。

当時は標高約1800mの田城原まで車が入り、そこでテン泊。翌日、1日で北沢峠まで縦 走し黒戸尾根を下った。ただ、現在は柏木集落上の塩平(しょべら)集落がなくなり、林道に ゲートが作られ、一般車は入れなくなったので、このような計画は出来なくなった。その時、 車で送ってくれたのはS夫妻。しかし、S氏は昨春闘病の末、亡くなった。

今回も北沢峠まで縦走の計画がないわけではなかったが、参加者の力量を考慮すると、やや 無理があり結局、往復の計画になった。

仙丈ヶ岳の冬は何回も上っている。1969年、初めて冬上ったアルプスも仙丈ヶ岳だった。 その後、1976年、仙丈ヶ岳~塩見岳のいわゆる、仙塩尾根時も上った。その後も何回登頂 したが、冬の3000mのアルプスでは、上り易い山と思う。ただ、地蔵尾根は北沢峠経由に 比べると、圧倒的に登山者は少なく、通・玄人好みのバリエーションとして知られる。

早朝、長泉発。天気はサイコーだった。伊那ICで東京から参加のS氏と合流後、柏木集落 に向かう。伊那の町から早朝の青空に仙丈ヶ岳が大きかった。車道に雪は殆どなく、順調に柏 木駐車場着。駐車場には、千葉ナンバーの車が1台のみ。この車の方は昨日、松峯小屋(注= 2万5千円は「松峰」だが、標識は「松峯」となっている)に入り、この日アタックしたが上 れず、その日に下山した。

駐車場で検量し出発。私の荷物は23.5Kgだった。20Kgを越えると重い。全盛期は 30Kg以上背負ったが今は無理だ。K橋も20Kg以上背負うには初めてで、やや心配の様 子。彼女は今山行にドイター・エアコンタクト65+10リットル(30780-)のザック、 PAINE・エクスペディション900(45360-)のシュラフを新調し参加。その意気込みは 凄かった。T葉、S野は25Kg前後だったが、年齢から考えれば問題ない???でしょう。



塩見岳遠望



林道を行く



T葉



仙丈が見えた



松峯小屋



私が先頭でゆっくり出発。雪は少なくアイゼンは着けなかった。有名な「孝行猿」は近かった。その上の鉄塔から塩見岳が遠望出来た。林道を2回横断して更に上って行く。少し雪が増えた。天気は無風快晴でバックの中央・北アルプスがよく観察出来た。

標高約1800m付近でまだ新しい林道に出る。標識を見たら何と平成26年度完成だった。ゲートは見たことがない立派な木製だった。地蔵尾根はなだらかな尾根が続くので林道を作りやすいかも知れない。林道ノリ面の縦の巨木の伐り跡が痛々しかった。

新しい林道を暫く上ると、ようやく登山道に出た。ただ、この辺りは昔の記憶は全くなかった。道はここから松峰(2080m)を巻く感じで進んでいる。途中、トレースは分かれ松峰に上っていたが、トラバースルートを進んだ。ところがこのルートは、案外曲者で歩き難いことこの上なかった。仕方がないので途中でアイゼンを履いた。

小屋手前のピーク上りで単独行に追い越された。そしてピークの下りで二人組に追い越された。昔はなかったことだが・・・(笑い)小屋のスペースが気になったので、T葉に先行して貰った。しかし、両者とも縦走で更に上っていった。男女二人組の女性はやや年配者で、重い荷物で頑張っていた。翌日、我々が登頂して下って来たら2900m付近ですれ違った。若い男性は先行して後続していたがエールを送った。

ピークを下りると小屋分岐で5分ほど下ると小屋が見えた。入り口左にシュラフ・炊事用具が置いてあった。暫くし主が現れた。前述した千葉の方で、今日アタックしたが、上れなかったという。何故上れなかったか理由は不明だが、今日の好天気で上れない(上らない)のは、勿体なかったと思う。結局、その方は15時頃下って行った。時間的にちょっと遅いと思ったが・・・。(後の情報で、我々の宴会を敬遠した様子です)

小屋は小さくなく、4人用スペースを張ったら、30cmほど通路に出てしまった。他に誰もいないので、炊事は外で行う。ただ、小屋は焚火をしたのだろうか、ススが酷く、手は真っ黒、ズボンも帰ったら真っ黒だった。

夕食は豚汁。その前にステーキを焼いて食べる。夕方から入山祝いで大いにやった。4人共飲んで大いに盛り上がった。ただ、酒量は限られるので、今日は上げた酒の半分だけ飲んで早めに休んだ。テントは室内で4名なので、全く寒く無かった。





## 第2日目

12月28日(日) 快晴・上部は強風

標高差 上り 松峯小屋約2020m～仙丈ヶ岳3033m＝約1013m

下り //

タイム 起床3:45－出発5:08－森林限界8:47－仙丈ヶ岳肩9:54－仙丈ヶ岳10:16－松峯小屋13:52(泊)

小屋内にテントを張ったのと4人用テントに4名だったので全く寒くなかった。予定より早く起床した。朝食は、昨日の豚汁の残りでオジヤを作った。出発は早く起きた分、予定より1時間早かった。アイゼンは最初から着けた。

まだ暗いのでヘッド・ランプを点ける。ランプを使うと、下部のイヤな急登を集中して上れるので嫌いでない。ラッセルは立派なモノが続いていた。ひと上りすると、小ピークに一人用の黄色いテントがあった。次第に明るくなって来た。南に塩見岳、西の地蔵岳の向こうに中央ALPS、北には穂高連峰と槍ヶ岳が見えた。

今日も天気は上々だった。しばらく上ると今度は緑色のテントがあった。このテントの主と後に頂上下ですれ違ったが、その日は小屋で一緒だった。

次第に樹木が疎らになって来た。森林限界が近くなった。見上げれば前方に大きな荷物の登山者が十名ほどいた。物凄い急登で歩みは遅い。彼らと彼女は森林限界の肩でアイゼンを着けた。見れば、まだ若い人たちで、聞けば「信州大学」と答えた。中に一人、若い小柄な女性がいた。

聞けば、今日は仙丈を越えて北沢峠でテン泊。明日は甲斐駒から黒戸尾根を下るとのこと。頼もしい連中である。ここで彼らの前に出る。肩の上はモーレツな風だった。苦しい上りが続いた。この先で、前述のオジサンとすれ違った。彼はピッケルを持っていたが、ストックで下山していた。雪山下部はストックでもイイが本来、上部はピッケルを使うべきだ。

なだらかな地蔵尾根の上端は、仙丈小屋からの道と合流する。眼下のモレーンに小屋を俯瞰出来た。その向こうの尾根は、北沢峠からの登山者が沢山行き来していた。当たり前だが、地蔵尾根の登山者は数える程である。

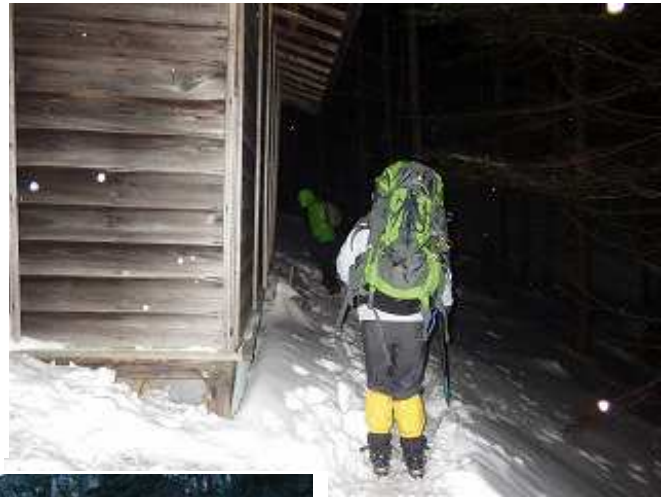
モーレツな風に揺れながら上る。頂上は、もう少し上と思ったら、ちょっとした壁の上が頂上だった。何ともあっけない感じ。やっぱり夏の印象と違う。仲間も次々に登頂。しかし、風が半端でなく油断は出来ない。素早く写真を撮り下山。長いは無用だ。北沢峠組が、小仙丈尾根から続々上って来る。

下りは楽だった。どうして山は上りと下りが極端に違うのか。直下で「信州大学」とすれ違う。しばし交流。エールで見送った。その下で、昨日会った単独男性とすれ違う。その下で昨日、抜かされた若い男子と交差。その下で男性パーティーの中年女性と交差。流石にテン泊で荷物が重く苦しそうだった。しかし、一見したところ、やや年配女性だったが、そのファイトには頭が下がった。

森林限界まで来れば風はなくなり静かになった。ちょっとした岩場はザイルを出すまでもな



出発風景



出発



樹林帯



信州大学P



ストックオジサン



地藏尾根上部

かった。樹林帯をグングン下る。この辺りは、昔の記憶は全く無かった。ま、35年前では無理もないが・・・。(笑い)

小屋が近くなった。下から若い男性が上って来た。聞けば、地蔵尾根を往復と言う。小屋泊でなく上でテントと言う。少し下ると今度は女性が二人。これもテント。先の男性と同じパーティーだったが、テントが別のようなのだ？

小屋に到着。入って右側に朝見た緑のテントがあった。主は、上ですれ違った男性だった。まだ、時間が早かったので、今日下ろうと思えば下れるが、下れない事情があった。聞けば、中高年の男性は、東京の方で車を持っていなかった。従って、全ての山行は公共交通機関で移動する。

問題は冬で、夏使えるバス等が使えない。殆どの場所が、冬バスが夏の登山口まで入らない。この仙丈もしかりで、戸台までバスは入らない。(1969年、私が初めて上った冬山は甲斐駒・仙丈だが、当時は入っていた＝当時は、車社会でなく、利用者が圧倒的に多かった。ちなみに当時、バス発車の伊那北駅では早朝、熱いお茶の「お・も・て・な・し」があった)

結局、車のない方はバスを使える山域しか行けない。地蔵尾根の場合、市野瀬集落までバスが通じている。だから、この方は地蔵尾根に来た。冬は3回やっているそうだ。ただし、市野瀬登山口の場合、柏木集落まで標高差が250m増える。そして、今から下ってもバスがないとのことだった。

我々は厳しい登頂に満足し、午後はゆっくりする。S持参の鶏肉塊をスライスして焼いて食



単独行



べたら美味しかった。鍋用の白ネギも焼いたらサイコーだった。残り少なくなった酒をチビチビやる。K嬢が上げた唯一のビアを頂く。五臓六腑に浸み渡る。しかし、疲れていたし、酒もなく、結局は早めに休んだ。明日は悪天予報で、夜暑くて参った。

### 第3日目

12月29日(土) 雪のち晴

標高差 上り

だらだら少しあり

下り 松峯小屋約2020m～柏木集落駐車場約1139m＝約881m

タイム 起床5:00－出発6:16－林道7:49－駐車場11:31－仙流荘12:30～14:00－下土狩18:00ころ

外は雪が降っていた。隣のオジサンは、既に出発した。朝食のオジヤは全部食べきれなかった。松峰の上りでオジサンに追いついた。トレースは埋まっていた。交代でラッセルを行う。我隊はTが頑張る。彼は今回、「ラッセルをやりたい」と切望していたので、それが叶った。

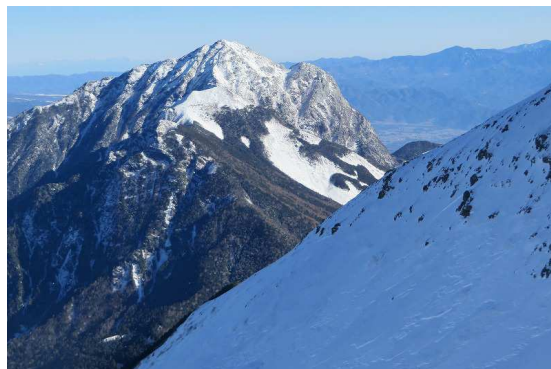
来る時は、それ程感じなかったトラバース道は実に長かった。荷物は一向に軽く感じず、肩だけが、むやみに痛かった。

孝行猿上の屈曲点でオジサンは真っ直ぐ下り、何処かに行ってしまった。場合によってはSが東京まで送ろうかの考えもあったが、である。我々はTが気付き上り返し、事なきを得た。雪山の下りは難しい。

孝行猿まで来れば駐車場は近い。大した雪でないと思ったが、車に積もった雪は凄かった。仙流荘に下り温泉に入る。至福の時だった。Sとここで別れた。地蔵尾根は長いが、全体的にはイイ山だった。

### その他の記述

1. 水は各自2L持参した。2日目はやや足りなかったもので、小屋屋根の綺麗な雪を融かして利用。これをTが濾過したが、殆ど汚れ・ゴミは無かった。
2. ガソリンは、コンロ2台で2L使用。ギリギリピツタリだった。他、ガスを使用。
3. トイレはない。大は小屋から遠い所にスコップで雪を掘って地表を出し、穴を掘って埋めた。紙は持ち帰った。小も穴を掘って済ませた。残飯も穴を掘って埋めた。
4. 地蔵尾根は長いが厳しい所はない。ザイルは持参したが、未使用だった。
5. 下山時、先行した方が、途中で見えなくなってしまったが、何処へ行ったか??!!



甲斐駒



頂上のG藤とK橋



左から、T葉・S野・K橋



モーレツな  
地吹雪の中  
下山